



国際ロータリー第2710地区
2019—20年度地区大会

市内全中学校に対して 「AEDトレーニングユニット」の寄贈

【カテゴリー】

青少年奉仕

【主管クラブ名】

岩国西ロータリークラブ

【プロジェクトの概要】

日 時：令和元年6月3日(月)午後1時15分から

場 所：岩国市役所4階 教育長室

参加者：岩国市教育委員会／守山教育長、重岡教育次長、大谷学校教育課長
岩国西ロータリークラブ／鎌田会長、西幹事、安田実行委員長

芦岡記念事業委員長、細田記念誌副委員長

内 容：岩国西ロータリークラブ創立50周年記念事業として、岩国市内全中学校に対して「AEDトレーニングユニット14台」「訓練人形QQジロー14台」を寄贈。

【経緯】

岩国西ロータリークラブでは、医療従事者でなくともAED(自動体外式除細動器)が使用できるようになって以降の2006年9月より、当時、医師でありクラブ会長であった藤本俊文バスターグバナー補佐が発起人となり、市内の14中学校を巡って、これまで延べ21回にわたり「心肺蘇生法AEDと救急処置講習会」を開催してきました。

学校における救急救命の教育がもたらす効果は多岐にわたります。校内で万が一の事態が発生した際に迅速な対応が期待できる他、生徒に広く救急救命の知識が広まることで、約7割が自宅で発生するといわれている心肺停止に子供達が何かしらの対処できる可能性が高まります。さらに、倒れた人、困っている人に積極的に声を掛ける、無関心に通り過ぎない、と言った基本的な態度を身につける効果も期待されます。

しかしながら、AEDトレーニングユニットまで導入して実技指導している学校は少ないのが現状であり、当クラブが講習会を年2回行っても、各中学校単位でみると約7年に1度の開催となるため、実技指導という面では問題を抱えていました。

また、AEDトレーニングユニットは、岩国消防署から借用していたため、各種団体も多く利用する事で陳腐劣化が起きていました。

そのような問題を解決するため、岩国西ロータリークラブ創立50周年記念事業として、岩国市内全中学校に対して、保健体育の授業等において定期的に実技指導が可能となるよう、「AEDトレーニングユニット14台」「訓練人形QQジロー14台」を寄贈しました。

【今後の課題・展望】

幼小中高の教員をめざす学生が履修する教職課程のうち、「学校安全」に関する内容が2019年度から必修になったようです。学校における非常時の安全に関わる設備の整備充実という面で見ますと、AEDを設置している学校の割合は92.2%(平成25年度実績)となっており、学校安全教室推進事業においては、AEDの取扱いを含む心肺蘇生法実技講習会の実施などの取り組みが行われています。

そのような背景の中、市内各中学校に寄贈しました「AEDトレーニングユニット」および「訓練人形QQジロー」を活用した定期的な実技指導に加え、「心肺蘇生法AEDと救急処置講習会」を併せて行うことにより相乗的な理解が進むものと期待しています。

今年度で「心肺蘇生法AEDと救急処置講習会」は13年目を迎えますが、市内各中学校からの要望を頂いておりますので、今後も継続して実施したいと思っております。

